発達や行動が気になる子への対応

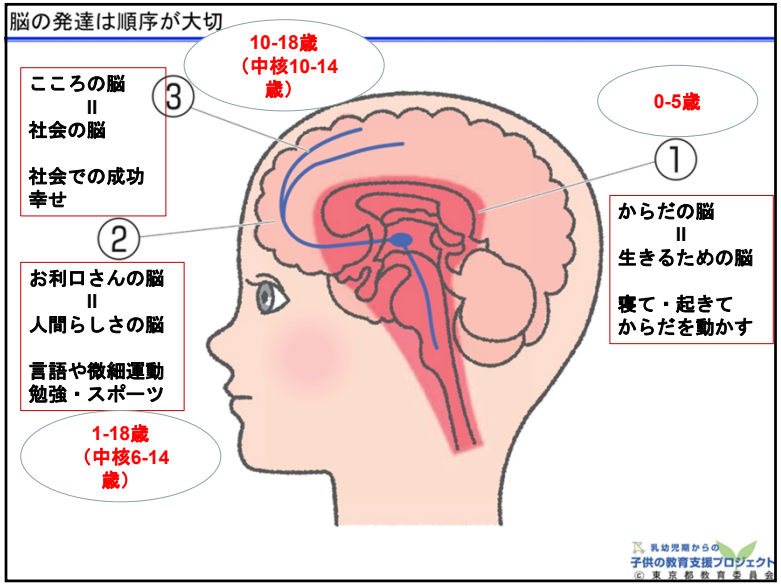
文教大学教授・子育て科学アクシス代表
小児科専門医・公認心理師
成田　奈緒子
子育て科学アクシススタッフ
臨床心理士・公認心理師
上岡　勇二

発達とは

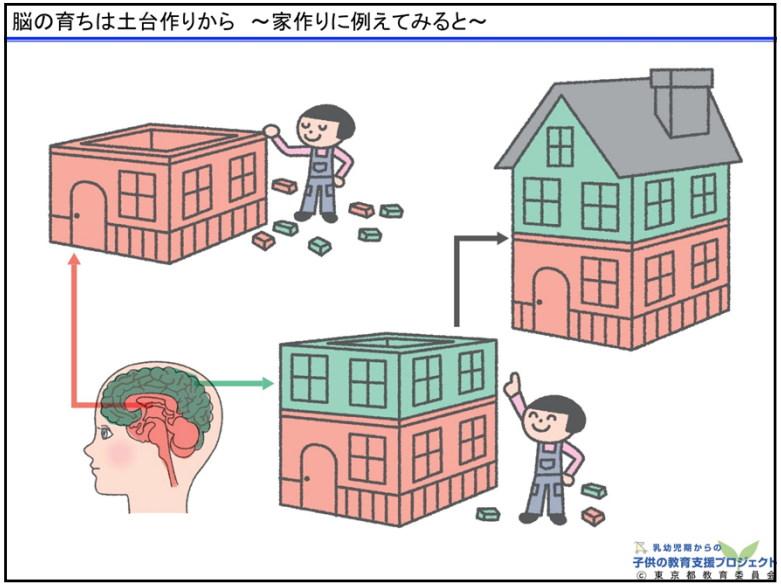
- ヒトが生まれてから約18年間を通してその大きさや機能を成長させていくこと
- 生まれてから1年で
  - 体重x3倍
  - 身長x1.5倍
- 生まれた時
  - 頭囲＞胸囲
- 生後2～4か月で
  - 頭囲＜胸囲
- 生後約1か月で光のほうを向く
- 生後約3か月で首が座る
- 生後約5か月で寝がえり・離乳食
- 生後約7か月でお座り・喃語
- 生後約9か月ではいはい
- 生後約12か月で立つ・単語・一日三食
- 生後約15か月で歩く
- 生後24か月でジャンプ・二語文

発達≒脳が順番にバランスよく育つこと、と言える

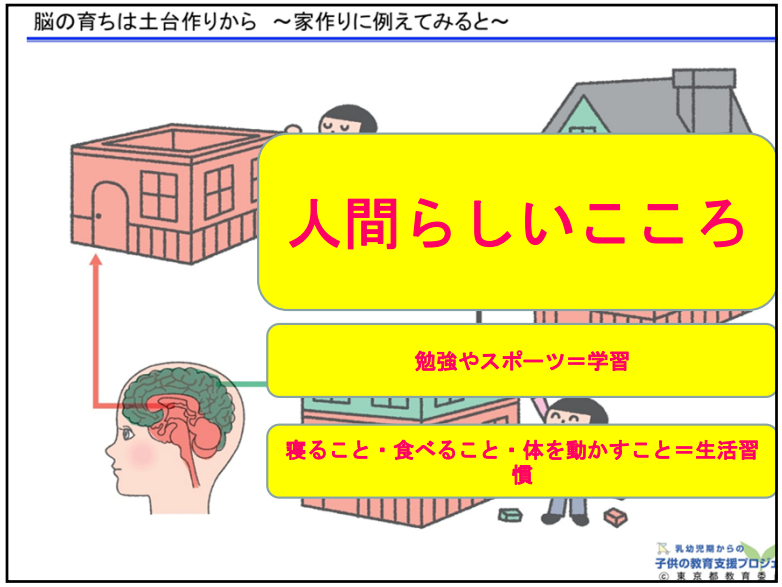
脳の発達は順序が大切

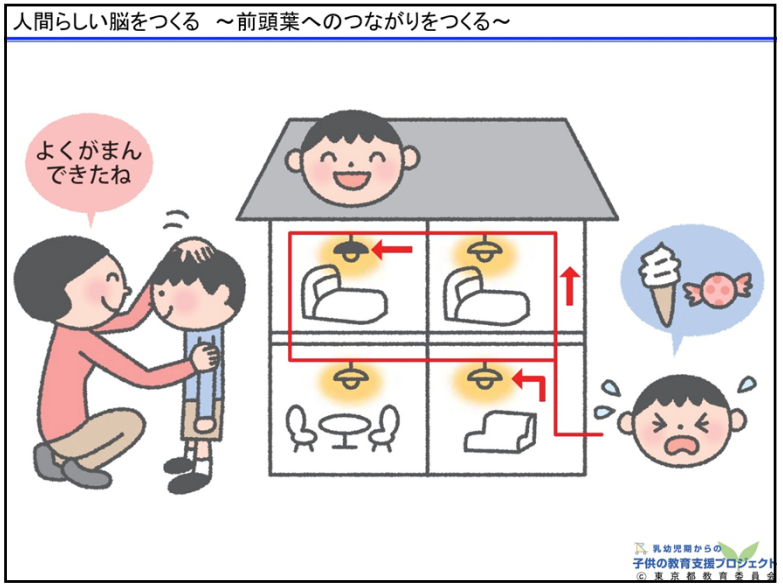


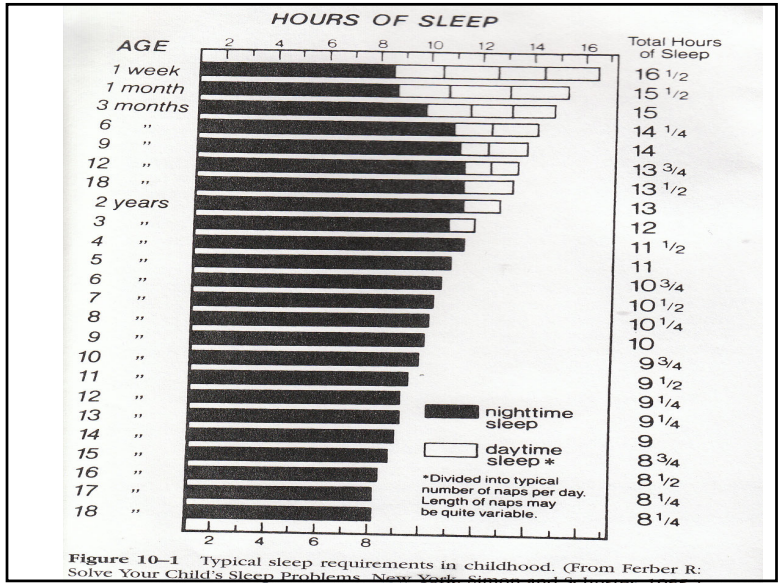
脳の育ちは土台作りから　～家作りに例えてみると～



無断転載を禁ず　子育て科学アクシス







無断転載を禁ず　子育て科学アクシス

からだの脳を育て直す

- 早寝からではなく、早起きから始める。
- 朝に楽しいことをもってくる！（ゲームやドラマやパズルや・・）
- できれば朝日を浴びて動くとよい。
- 朝風呂もおすすめ！
- タンパク質を摂って胃腸を動かす。

何歳からでも大丈夫！

乳幼児期に親がすべき最も大切なことは？

- 「自分は昼行性の動物なんだ！！」と子どもの脳に覚えこませること

・・・つまり、

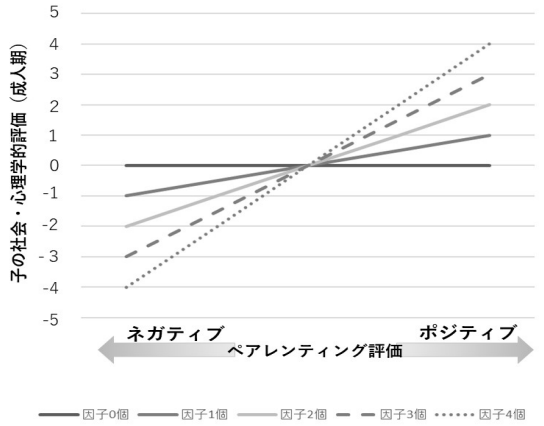
- 「自分で」目が覚める朝
- 「自分で」おなかがすく朝
- 「自分で」排便したくなる朝
- 「自分で」動きたくなる朝
- 「自分で」眠くなる夜

確かにこれは、脳の機能障害の子には難しい課題です。
だからこそ「ここだけ」根性を入れて作るのです。

学習やスポーツや「いい子」はそのあとでゆっくり、です。

無断転載を禁ず　子育て科学アクシス

ペアレンティングの効果
―育てにくい子ほど良く伸びる―



遺伝的に脆弱な子(5HTTLPR, DRD4 etc)であっても、良いParentingや良いenvironmentと組み合わされることで、大きく将来像は変わる可能性がある。

Sci Am Mind 26, 40-45, 2015.
J Fam Psychol. 28(3):357-67, 2014.
Dev Psychopathol. 27:775-90, 2015.
Dev Psychopathol. 27:37-49, 2015.

ペアレンティング

①確立された、ブレない生活習慣

②調和が取れたスムーズなコミュニケーション

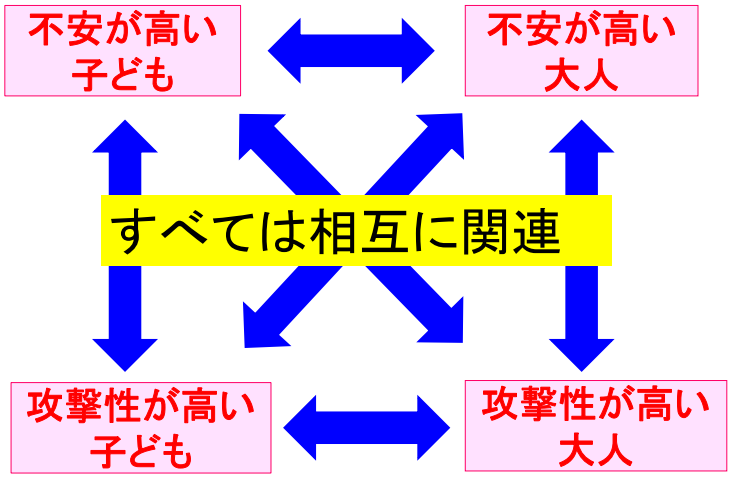
③お互いを尊重して協力しあう体制・役割分担

④ストレスの適切な対処法を共有する

⑤大人と子どもが互いに楽しむ、
ポジティブな家庭の雰囲気を作る

⑥大人はぶれない軸を持つ

18



無断転載を禁ず　子育て科学アクシス

レジリエンスとは

- 困難に立ち向かう力（あくまで主観的）
- 疾病抵抗性・しなやかさ・回復力・逆境を跳ね返して生き抜く力・病を防ぎ病を治す身体の働き(疾病抵抗力,抗病力)・発病防御因子と回復促進因子を含む疾病抵抗因子の総称、など訳し方には色々ある。
- 不安とレジリエンスは深く関係する。レジリエンスの低い人ほど対人場面における予期不安が高まる。
- 発達障害のある人は一般的にレジリエンスが低いことが多い。

資質的なレジリエンス

ストレスや傷つきをもたらす状況下で感情的に振り回されず，ポジティブに，そのストレスを打破するような新たな目標に気持ちを切り替え，周囲のサポートを得ながらそれを達成できるような回復力

わかっちゃいるけど むずかしい！！

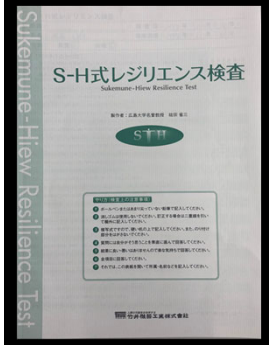
獲得的なレジリエンス

自分の気持ちや考えを把握することによって，ストレス状況をどう改善したいのかという意志をもち，自分と他者の双方の心理への理解を深めながら，その理解を解決につなげ，立ち直っていく力

レジリエンスを測定する

レジリエンス:「困難に立ち向かう力」

●S-H式レジリエンス検査 （竹井機器工業株式会社）



レジリエンス合計点

ソーシャルサポート
周囲の人たちからの支援や協力などに対する本人の感じ方

自己効力感
問題解決をどの程度できるかなどに対する本人の感じ方

社会性
他者との付き合い方における親和性や協調性などについての本人の感じ方

ということは

資質的なレジリエンス
ストレスや傷つきをもたらす状況下で感情的に振り回されず，ポジティブに，そのストレスを打破するような新たな目標に気持ちを切り替え，周囲のサポートを得ながらそれを達成できるような回復力

獲得的なレジリエンス
自分の気持ちや考えを把握することによって，ストレス状況をどう改善したいのかという意志をもち，自分と他者の双方の心理への理解を深めながら，その理解を解決につなげ，立ち直っていく力

・・を自分で努力して獲得できればもちろんOKだが、実際には難しい、ので。

⇒ 自分の気持ちや考え、の代わりに「脳波の変化・脳トレの出来具合」「自律神経の活動量」などわかりやすいツールを用いて自分評価をしつつ、信頼できる他者からのアドバイスを定期的に受け続けることがレジリエンスの改善のみならず、脳機能のアップにもつながる！

無断転載を禁ず　子育て科学アクシス

詳しく学びたい方はぜひ子育て科学アクシスへ！

HPはこちらから！

子育て科学アクシス（南流山駅前）

ほぼすべてのプログラムがオンライン対応！

・子育てを科学的に学びませんか？

・親の学び、子どもの居場所、引きこもり、不登校相談、発達相談

・医学、心理学、教育、福祉の専門家がサポート

・ご予約お問合せはお気軽に！
Email : contact@kk-axis.org
Tel : 04-7197-6238

・代表：成田奈緒子
（小児科医・発達脳科学者・文教大学教授）

成田奈緒子（なりたなおこ）
文教大学教育学部特別支援教育専修教授・日本専門医機構認定小児科専門医・公認心理師・発達脳科学者
子育て科学アクシス代表

1987年神戸大学医学部卒業、小児科医としての研修を終えたのち、1994-1998年、米国セントルイスワシントン大学医学部リサーチアソシエイト、1998年独協医科大学越谷病院小児科助手、2000年筑波大学基礎医学系を経て2005年より文教大学教育学部准教授、2009年より同教授。
茨城県発達障害者支援センターと茨城県土浦児童相談所の嘱託医等を兼任、牛久愛和病院小児科での専門外来を開設しており、小児期のさまざまな精神心理疾患の外来診療にも携わっている。2014年からは医学・心理・教育・福祉を包括した専門家集団による新たな親子支援事業「子育て科学アクシス」を開設、代表に就任。
著書：
「山中教授、同級生の小児脳科学者と子育てを語る」（講談社）
「子どもの自己肯定感は親のひと言で決まる！」（PHP研究所）
「子どものいいこと大全」（主婦の友社）等多数

上岡勇二（かみおかゆうじ）
臨床心理士・公認心理師・子育て科学アクシススタッフ

1999年茨城大学大学院教育学研究科障害児心理修了、1999年水戸市総合教育研究所「適応指導教室」指導員、「こころの教室」中学校相談員、2001年福島県立特別支援学校講師、2003年茨城県下館児童相談所心理判定員、2004年茨城県発達障害者支援センター心理担当スタッフを経て
2014年より子育て科学アクシススタッフ。一貫して子ども達や成人の社会性をはぐくむ支援、生活を整える支援、家族関係の支援、ひきこもり支援、就労支援などを行う。アクシスでは子ども、成人、保護者や支援者を対象に、カウンセリングや「コミュニケーション」「ストレス」「子育て」をテーマにしたワークショップを開催中。
著書：
「子どもが幸せになる『正しい睡眠』」（産業編集センター・成田奈緒子共著）
「子どもの脳を発達させるペアレンティングトレーニング～育てにくい子ほどよく伸びる～」（合同出版・成田奈緒子共著）

連絡先：
子育て科学アクシス　〒270－0163　千葉県流山市南流山　2丁目2番7号　シプヤビル304号室
電話・FAX　04-7197-6238　（火・水・金・不定期土日開室）
E-mail: contact@kk-axis.org
HP: http://www.kk-axis.org（「子育て科学アクシス」HP　ブログやってます！）

無断転載を禁ず　子育て科学アクシス